

---

# マリオ&ルイージ 1・2・3

スマッシュ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

マリオ&ルイージ1・2・3

### 【Nコード】

N8071Y

### 【作者名】

スマッシュ

### 【あらすじ】

マリオとルイージのゲーム1と2と3の話を書いていきます。  
よろしくね

## 1 番目の冒険 プロローグ

スマッシュブラザーズで逃走中を現在書いている  
スマッシュです。

今回はマリオ&ルイージRPGで全ての話を書いていきたいと思  
います。

ではどうぞ、

マメーリア王国からの使者が来ました。

マメばあ「キノコ王国とマメーリア王国の交流のために来ました。  
女王からのプレゼントでございます」

ピーチ（何かしら？）

パカッ、ブシューー

マメばあ「ゲヒヤヒヤヒヤ！」

ドカドカドカ

ボンッ

「きゃははは」

ひゅゝスポ

すゝゝゝ

バタッ

「???」「ゲヒヤヒヤヒヤ！」

空が雷雲があつた。

次の日

「???」「おい」

「???」「ん？何キノピオ？」

キノピオ「ルイージさん、臨時ニュースをみましたか？」

ルイージ「いや見ていないよ。それがどうしたの？」

キノピオ「では、マリオさんに聞いてみます」

ドキューン

家の中

キノピオ「マリオさ〜ん」

???「らららつららら〜らつらつらつららら」

キノピオ「ムーディな鼻歌が聞こえる」

キャーーーーー

キノピオ顔真っ赤

だっだーーーーードカッ

???「何だ？さっきの叫び声と地震は？」

???「あつ、キノピオ！」どんどん

キノピオ「マリオさん、ピッピーチ姫が・・・」

マリオ「何ー!?」ドキューン

たたたたたピョンドカッ

ルイージ「あれ〜」

城では

???「しつかりするのだ、ピーチ姫！」

マリオ「うおーーーーピーチ姫ー！わわわわっ」

キッキー

ルイージ「うわーーーー」

ピウーーーーードカッタタタ

???「ンーガ何をするんだマリオまたしてもお前か今度こそ倒してやる！」

マリオ「クッパなぜいるんだ!？」

クッパ「それはお前を倒してからだ！」

バトルシーン

マリオ「ウリヤ、ジャンプだ」

クッパ「うおっ。こっちの番だ！」

ガッピョン!

マリオ「あぶねー、もう一回攻撃だ!」

ドカッドカッ!

クッパ「ググッグギエ」

クッパ「・・・」ピョン

クッパ「ウガーこんな事をしている場合ではないぞ!」

キノピオ「マリオさん、ピーチ姫の声が盗まれてこんな声に」

ピーチ「pしえr「pq」@ふいつ」

ドカドカドカ

キノピオ「変わりにこんな爆弾声に」

ピーチ「ydばおいどああssvd p」ドカドカドカ

ピーチ「他sdbういおshqkc b」ドカドカドカ

クッパ「こんなピーチを捕らえたら我輩の城が壊れてしまうではないか。マリオ何とかしろ!」

マリオ「何とかしろっていわれてもね」

キノピオ1「マリオさん、姫の声を取り戻してください!」

キノピオ2「そいつはマメーリア王国の使者です!」

クッパ「ガハハハ、では、そいつを捕まえて声を取り戻すことよ、マリオ準備しろ!」

マリオ「わかったよマメーリアへ行く準備すればいいんだろ?」

ピーチ「ただsベルウオンdくいおdnvgdjかいfhr yg n f yg」

クッパ・マリオ・ルイージ「ぎゃ~~~~~」

ドカーーーン

マリオ「準備だよ！それと、出発だ！」（前書き）

今からこれを書きながらゲーム マリオ&ルイージRPGをやっ  
ていきます

（言葉を間違えないため）

マリオ「準備だよ！それと、出発だ！」

今の爆発で危機一髪逃れたマリオ準備のためキノコタウンを回っていた（中庭かもしれない）

キノピオ1「あつまリオさん、もうすぐマメーリア王国へ出発ですね！どうぞ、置きお付けください」

マリオ「ああ、わかったよ」

キノピオ2「マリオさん僕のキノコとっていただけませんか？」

マリオ「おう、取ってやる」ピョン「取ったよ」

キノピオ2「ありがとうございます、ついでにこれ持って行ってください」

マリオはスーパーキノコをもらった。

マリオ「ありがとうございますキノピオ」

キノピオ3「どこにいったのかな？」

マリオ「どうしたの？」

キノピオ3「僕の大事なものがどこかにいつてしまったんだ、探してくれるかな？」

マリオ「探してやるよ！」

1分後

マリオ「あつたぞ！」

キノピオ3「ありがとうございます、これもってってください」

マリオは1UPキノコをもらった

マリオ「ありがとうございます」

ノコノコ「どこにクッパ様が行ったのか分かるか？」

マリオ「あっち（だと思っ）」

ノコノコ「そうか、では失礼」

ルイーダ「やあ兄さん、クッパがここに来たよ」

マリオ「ふん」

ルイーダ「クッパは向こうに歩いていったよ」

マリオ「じゃあ行こう!」

????「マリオどの」

マリオ「ん?キノジい?」

キノジ「ピョン」

キノジ「マリオどの、長旅になるようなのでスニーカーを渡すぞ!」

マリオはスニーカーを手に入れた。

キノジ「それと、100コインじゃ」

マリオは100コインもらった

キノジ「ところでルイーダどのも行かれるのですかな?」

ルイーダ「いや行かないよ。お迎えだよ」

キノジ「お迎えです?なら、わしと同じじゃの。では、マリオどの、わしは先に行っておくぞよ」

????「マリオ」

マリオ「あつ!」

クッパ「遅い!なにをしていたのだ!」

マリオ「その辺のキノピオの手助けだよ!」

クッパ「後は我輩のクッパ軍団集合だ」

ルイーダ「じゃあね」

キノジ「...」

マリオ・キノピオ・クッパ「...」

クッパ「んが!どこへ行った!?、お前もクッパ軍団へ入りた  
いのか?」

ピョンピョン



クツパ「そうかそうか、そんなに入りたいのか！」

ルイージ「えっ！」

キヨロキヨロキヨロ

ルイージ「僕？」

クツパ「そうだお前だ！」

ルイージ「いやいや僕は入りたくないよ」

クツパ「がははは、足を引っ張りそうだが特別に連れて行ってやる  
！」

どきゅ~~~~ん

クツパ「逃げるな~~~~」

ドカツ！

ノコノコ「すみませんただいまとうじょうします。おゝい、こつち  
だぞ！」

ざっざっざっざ

クツパ「がははは、軍団に1人増えていざ出発するぞ！」

ノコノコ「以上とうじょう終了しました。1人除いて」

クツパ「何~~~~」。大至急発信するのだ！」

ドキュ〜ン

たたたたたガシッ

カメジェット内部

放送「おいマリオと緑のひげ！」

マリオ「なんだ!？」

ルイージ「緑のひげって、僕のことか・・・」

放送「マリオと緑のひげに言う今からピットに来い！」

マリオ「ルイージ行こう！」

ルイージ「緑のひげって、緑のひげって、しくしく」

マリオ「ほら行くぞ！」

ルイージ「うっうん・・・」

ノコノコ「ちよつと待てそこのお前たちだ！」

マリオ「何？ノコノコ？」

ノコノコ「お前らパスポート持っているか？」

マリオ「えーとパスポート、パスポートあった」

ノコノコ「そうだそれがパスポートだ・・・あれ？写真がない。写真がないとマメーリア王国へ入れないぞ！」

マリオ・ルイージ「え〜〜〜」

ノコノコ「しかし大丈夫だ。ここでお前たちの写真を撮ればいいことだ」

ルイージ「いい考えだね」

マリオ「じゃあさっそく撮ろう」

ノコノコ「よし、ではそのマットに乗ってくれ！」

マリオ「乗ったよ！」

ノコノコ「じゃあ緑のひげはその辺にいといてくれ！」

ルイージ「また、緑のひげだって・・・しくしく」

ノコノコ「撮るぞー！。おい、じつとしてくれ勝手にポーズをとるんじゃない！いくぞ〜はい、ポーズ！」カシャッ

マリオ「次はルイージだぞ！」

ルイージ「うん」

ノコノコ「じゃあ撮るぞー！はい、ポーズ！」カシャッ

ノコノコ「よしこれで二人ともパスポートに張ったな。じゃあクツパ様に会いにいきな」

マリオ「ありがとよ」

ノコノコ「う〜ん、あれがこうで、これがこうで、間違えたら最初からやり直した。！、あつマリオ俺だよ俺」

マリオ「誰？」

ノコノコ「あの時道を聞いたノコノコだよ。あの時はありがとよ。お礼にこれをやる！」

マリオは1UPキノコをもらった  
マリオ「ありがとよノコノコ！」

ノコノコ「まてー！」てててて  
ノコノコ「まてー！」！ざっざっざっざっざっピューン  
ノコノコ「・・・。これじゃあ一個も終わらないよ。クッパ様の手  
伝いもあるのに・・・。！あっマリオ！」

マリオ「なに？」  
ノコノコ「バトルでこいつを捕まえてくれ！まずは踏んでみろ」  
ピョン！ドカツ！

ノコノコ「そうだバトル前に踏めば追加攻撃ができるぞ！しかし後  
ろのひげが当たると一時行動ふかになるからな！」  
マリオ「よし！勝ったぞ！」

ノコノコ「ありがとよ！」ポイツポチツヒュ〜ドカツ！  
ノコノコ「ありがとやっとな終わったよ。ピットはすぐそこだぞ！」  
マリオ「ありがとう、ノコノコ」

ピット前

ノコノコ「誰だ！こんな所に箱を置いたのはこれじゃあピットにい  
けないぞ！」

マリオ「あんなところにブロックがある」ピョンドカツ  
ガ~~~~

ルイージ「この箱だよ〜」

ピタッ！

ルイージ・マリオ・ノコノコ「？」  
が~~~~

ルイージ「わ~~~~」

マリオ「ルイージー・・・大丈夫か？」

ノコノコ「あゝあ間違えて持っていていかれたな、仕方がない監視役  
にでもしよう」

ノコノコ「クツパ様、もうすぐでキノコ王国とマメーリア王国の国境を超えます」

クツパ「うむ、ご苦労」

ルイージ「うわわわなんだ〜」

クツパ「どうした何か見えるのか？」

ドカンッ！

ルイージ「あわわわわ」ポムッ

クツパ「どうしたことだ。ムッ！！」

ドドドドッ

???「ゲヒヤヒヤヒヤ、このゲラゲモーナを追いつこうとは1000000年速いわ！」

クツパ「お前がピーチの声を奪ったんだな！？」

ゲラゲモーナ「ゲヒヤヒヤヒヤ、そのとおり！」

マリオ・ルイージ「！！！」

ゲラゲモーナ「今からマメーリア王国を支配しようと思っているんだ。ゲラコビッツ！やっておしまい！」ビューーン

クツパ「ンガーーー待てー」

ゲラコビッツ「あははははお前達ではゲラゲモーナ様には追いつかないる、お前達はここにくたばるのたる」ボンドカッ！

クツパ「グハッ！」

マリオ「クツパ！大丈夫か！」

ルイージ「あれ？兄さん！ゲラコビッツがいないよ！」

マリオ「まさか！本当にいない」

ゲラコビッツ「あははは」

マリオ・ルイージ「うわ〜」

ゲラコビッツ「まずはお前達から倒してやる」

バトルモード

マリオ「おりゃっジャンプだ！」ドカッ！

ルイージ「僕も！」ドカツ！

ゲラコビッツ「痛いるるね、じゃあこっちからも攻撃する！」ボンツ  
ドカツドカツ　ボンツ

ゲラコビッツ「アガッ」ボカン！

ゲラコビッツ「今度は転がって攻撃するるる」ゴロゴロ

マリオ「当たるか！」ドンツ！

ゲラコビッツ「アガッ！るるこんなこともあるつかと、いらしゃい」すすすスポッ

ゲラコビッツ「ゲヒヤヒヤヒヤッ」

ゲラコビッツ「あははは、あまり効かないるるね。こつするしかないる」ボカンボカンボカン  
ゲラコビッツ「あははは」

マリオ「待て」

マリオ・ルイージ「わあ」  
ドッカ」

次回、チャレンジコッキージャンプ！

マリオ「準備だよ！それと、出発だ！」（後書き）

今遊び中

テスト期間なのに・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8071y/>

---

マリオ&ルイージ1・2・3

2011年11月24日15時52分発行